

2012(H24).06.02-2

橋本前監督と多辺田新監督の歓送迎会を開催しました

6月2日(土)午後6時から、日立シビックセンターマーブルホールにおいて、橋本晃輝前監督の送別会と、多辺田正樹新監督の歓迎会を開催。両監督を含め、56人のOB・関係者が集まり、思い出話に花を咲かせながら、楽しいひとときを過ごしました。

会は尾又篤OB会長のあいさつに始まり、橋本・多辺田両監督のあいさつの後、4月から再任用で日立一高に着任された佐藤恵二先生、附属中学校ラグビー部顧問の萩原知樹先生からそれぞれ自己紹介をいただき、村山功副会長の音頭で「乾杯！」

しばし歓談の後は、橋本監督の教え子たちからのスピーチで盛り上がり、記念品・花束の贈呈。併せて多辺田監督にもOB会から記念品を贈呈。最後は橋本監督の同期を中心に「部歌」を斉唱してお開きとなりました。

平成18年度の創部60周年記念事業から早6年、日頃なかなか顔を合わせる機会の少ない同期と再会した方も多く、積もる話はきっと深夜まで続いたことでしょう。これを契機に、OB会行事へ多くの皆さんが参加していただけることを期待します。

なお、橋本監督があいさつで触れていた「朝日新聞」の取材の件は、早くも6月3日(日)朝刊の茨城版に掲載されていました。(思ったよりボリュームが少なめでしたが、現役の皆さん、これを励みに頑張ってください！！) ※3ページ目に掲載







練習に励む日立一高ラグビー部の選手たち=日立市若葉町3丁目



県内の高校生ラグビーが激減している。県高体連加盟33校中、4校は部員ゼロ。2日に始まった国体県大会には部員の足りない16校のうち15校が3チームの合同チームを編成してやっと出場を果たした。

高校生ラグビー激減

少子化・きついイメージで敬遠…

小中生に普及→部員数維持も

関東大会出場16回の県立太田一(常陸太田市)も県北・水戸地区の4校と合同チームを作った。現在の部員は2年生2人だけ。2年前に赴任したラグビー部OBでもある会田一博監督(41)は「私たちの時代は1学年10〜15人いたのに」と寂しそうだ。

県内高校ラグビーは、かつて88年度に茗溪学園が全国優勝するなどレベルの高さを誇った。高校ラグビーをテーマにした人気テレビドラマ「スクール・ウォーズ」の影響もあり、登録選手数は90年度が1551人、91年度が1511人いた。しかし、少子化や趣味の多様化に加え、きついイメージが若者に敬遠され、今年度は500人を割るとみられている。単独でチーム編成できる学校も激減。91年春は47校あったが、今春はわずかに13校だ。

2016年のリオデジャネイロ五輪から男女とも7人制が正式種目になる。19年にはW杯日本開催が決まり、県では国体がある。こうした追い風が吹くなか、すそ野の拡大ができるか、県ラグビー界は正念場を迎えている。(津佐義洋)

それを県立で実践しているのが日立一だ。全国大会5回出場の同校は、今年も9人の1年生が入り、総勢27人。関東高校県予選では私学の強豪と競り合うなど、高いレベルも維持している。今春開校した付属中学にはラグビー部を設けた。前監督の橋本晃輝さん(44)によると、OB組織のサポートがしつかりしており、小学生を対象にしたスクールも開いているという。

太田一の会田監督は「県内の中学にはラグビー部がほとんどなく、高校から始める選手が多い。小さい頃から慣れ親しんでもらう環境が必要では」と指摘する。